2019年９月28日（土）チーム神於山活動報告

2019.09.30
シャープ社友会
チーム神於山
真砂 記

■活動日：2019年９月28日（土）　９：００～１２：００
■参加者：チーム神於山　７名
■活動内容
- 今回は、前回刈り残した暗渠回りと、多目的広場と林道の間の斜面の草刈りに取り組む一方、フクロウの棲む森づくりの準備で器材の確認をしました。
- 草刈りはほぼ一時間で終わると思っていましたが、遠目で見るのと実際に刈に入るのとでは大違いで、林道沿いの植栽地の笹は人が隠れるほど伸びていましたし、暗渠回りは２m近くに伸び茎が木質化して固くなったセイタカアワダチソウや、４m近く育った木？でジャングル状態だった為、残念ながら時間内には終えられませんでした。やはり草刈りは先手必勝です。
- 活動頂いた７名の皆さん、お疲れ様でした。

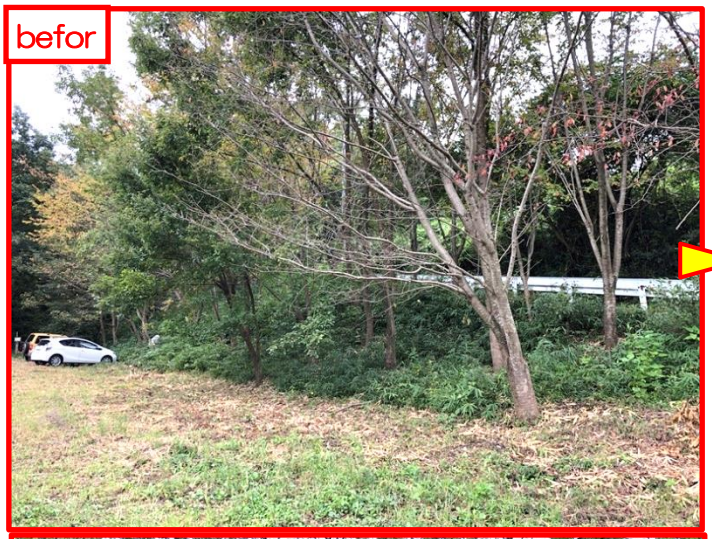
■自然色々
- トレイルカメラ班の北浦さんが、記念樹ゾーンのクリの木の根元を狙ってセットしたカメラに、イノシシの子供（瓜坊）が写っていました。イノシシも子供の時はカワイイ！
- また多目的広場でキノコを、また暗渠回りで４m以上に育った木？を見つけました。
  きしわだ自然資料館にサンプルを届け、同定をお願いしています。

■次回以降
- 10 月からは 9 時半集合、10 時活動開始で午後 3 時までが活動時間になりますから腰を据えた活動が出来ます。
- 以前決めた記念樹ゾーンの クリ・リョウブ・シダレザクラ・イロハモミジの処理や、倉庫整理や機材のメンテナンスに加え、‘フクロウの棲む森づくり’も本格化します。
- 別途ご案内しますので、奮ってご参加ください。

■before & after 集

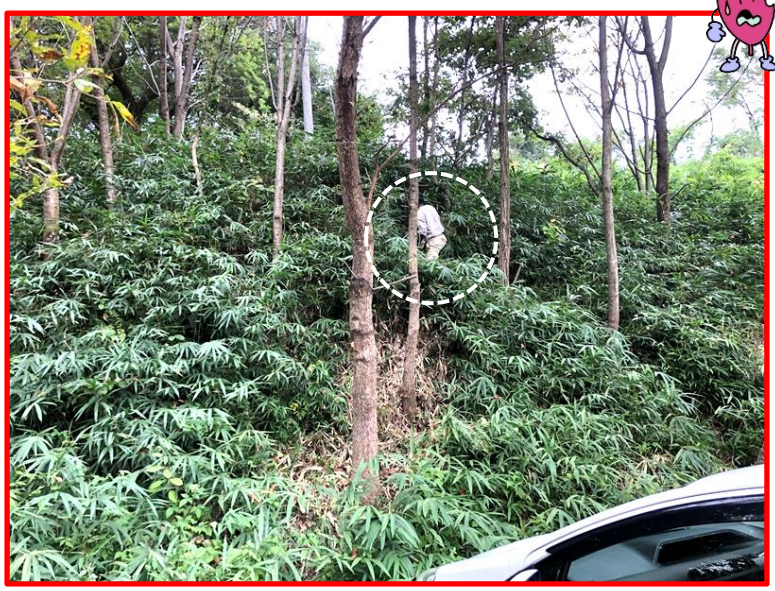
● 多目的広場と林道の間の斜面の草刈り ●　基地周辺を除き、ほぼ終了です。

befor



after

《作業風景》

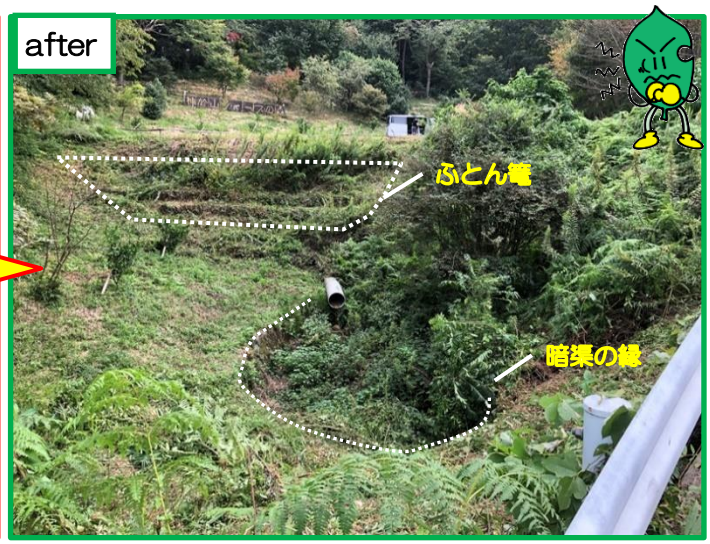


- 神於山シャープの森で植林したエリアは、元は２mほどもある在来種の笹原でした。
- 今茂り始めている笹はその名残で、残った根から発芽し成長したものです。

- 苗木が成長した分日照が遮られ、今のところ高さはそれほどでもありませんが、左の写真の様に、手刈りで入った高瀬さんの腰ほどまで伸びていますから、このまま放置しておくと元の 2m 近い笹原に戻ります。

- 今回も、目隠しの意味でガードレール沿いは刈らずに残しましたが、先を考えると、基地周辺を除いて下手に残さず全伐した方が良さそうです。

● 暗渠回り ●　久しぶりに法面のふとん篭と暗渠の縁が顔を出しましたが、まだ１/４ほど刈り残しています。



《作業風景》　　作業は手刈りと刈払機のコラボで進めます。

- 多目的広場（写真上・奥）は、元の沢筋を埋め立てて造った造成地ですが、暗渠はそれ以前に作られたものですから、広場と暗渠の縁までは５m近い段差があります。

- その段差（多目的広場と暗渠の法面）は、土砂崩れ防止のために「ふとん篭」（太い鉄線を編んで作られた四角い箱に割り石を詰めた物）を４段並べて保護されていますから、直接刈払機で刈りに入ると刃を痛めてしまいます。

- そこで作業は、先ず手刈りで布団篭を露出し、刈払機で刈りに入るという形で進めることになります。
- 写真は、手刈り中の孝橋さん（左）と岡森さんです。

■活動頂いた７名の皆さん。　　刈り込んだ斜面を背景に一枚。お疲れ様でした。

■自然いろいろ。　　記念樹ゾーンで瓜坊・多目的広場でキノコ・暗渠で初めて見た木（？）

瓜坊　　９月 20 日午後３時 52 分撮影

９月 19 日午後８時 35 分撮影

- イノシシの子供は生後４か月位の間、体に白い横線が入っています。
- それが「まくわ瓜」に似ているので瓜坊とも呼ばれます。
- 母イノシシと行動するので、この時も近くに母イノシシや兄弟/姉妹が居たはずです。

- 多目的広場の暗渠寄りに出ていました。色は真っ白で、丸い傘の大きさは数ミリ～2ｃmほどです。
- 茎は低くて見えませんが、有るようです。

- 暗渠の林道沿いの斜面から上に真っ直ぐ伸びていました。
- ガードレールから更に上に伸びていましたから、高さは４～５m。
- 葉は、幹から放射状に伸びた枝に、左右対の形で沢山付いています。
- 幹の分部は、中間から上は３ｃm未満なので刈払機一振りで伐れますが、根元近くは５～６ｃm有り、数回から十数回刃を当てないと伐れませんでした。
- 草のようでもあり、木のようでもある不思議な植物です。

以上